

復活節第4主日の説教

金 大烈 神父 2010年4月25日(日)

《荷物を下ろしてください》

おはようございます。

暫くの間、一分間くらい、沈黙のうちに、私達の耳にどんな音が聞こえるか、耳を澄ましてみましょう。

(今日は、太田市内の丘陵地にある金山の森キャンプ場での野外ミサです。若葉を渡る風のざわめきと、うぐいすの澄んだ鳴き声だけが響いています)

鳥の鳴き声と子供たちの遊ぶ声だけです。

さあ、日本では、荷物を頭に乘せて運ぶ習慣は無かったですよね。私の育った朝鮮半島では、荷物を運ぶ時に、男性は何か物を使って運び、女性は頭の上に、瓶や荷物を乗せて運ぶ姿をよく見ました。

ある司祭がいました。司祭が仕事をして帰る道で、町から離れている、あまり往来のない道を車で通りかかった時、年のいったおばあさんが立っていました。そのおばあさんは荷物を頭に乘せて、助けてくれる人を捜しているような素振りでした。その迷っている姿が司祭の目に入りました。その司祭は気になって車を止めて、「どちらまで行かれるのでしょうか。私が車に乗せてあげますので一緒に行きましょう」と誘いました。すると、おばあさんは「ありがたい」という様な顔をして車に乗り込みました。「どこまで行きますか?」という司祭の問いに「 まで」と答え、司祭は運転を始めました。そしてふとバックミラーで見ると、おばあさんは頭の上に荷物を載せたまま座っている姿が映りました。驚いて、司祭はおばあさんに「大丈夫ですから荷物を下ろしてください」と言うと、おばあさんは「自分の身体だけでもすまないのに、私のこの荷物まで車に置いたら、申し訳ないことです」と答えました。

今、皆さんは全員笑いましたね。しかし、実際にこのおばあさんの姿は、私達の姿ではないでしょうか。神様が『あなたを色々な心配、不安から解放してあげるよ』、『私が守ってあげるから』と、いつも私たちにおっしゃっているのですが、私達はその“荷物”をしっかりと抱きしめている様な生き方をしているのではないのでしょうか。

皆様、神様を信じていますよね。それでは、ちょっと言葉のニュアンスのようですが、皆様は神様を信頼しているのでしょうか。“信じる”事と“信頼する”事は違いますよね。“信頼”していますか?“信頼”したら不安に陥る事は嘘です。何があっても、どんな不安な事があっても、「あなたがどうにかして下さるでしょう」という確信を持つはずです。信仰というものは、“信頼”する事です。神様が「私を守って下さる」「私にとって一番良い道に導いて下さる」と信じる事ですよね。その確信が無かったら、当然、私達は不安に陥ります。病気にかかった時に、お金が必要な時に、成績が悪い時

に、人との関わりが悪くなった時に、皆様は、まず何を信頼すべきか考えてみて下さい。

今日、イエス様がはっきりおっしゃいましたね。『私のひつじは私の声を聞き分ける』と。皆様、聞き分けているのでしょうか。私達は“ひつじ”ですよね。イエス様、神様は何でしょうか。“牧者”ですよね。私達は、あの方の“み言葉”を聞き分けているのでしょうか。

結局、信頼の問題です。信頼する心があれば、聞き分けます。聞き分けられます。しかし、私達はいつも、一番大事な事を忘れてしまいます。“荷物”を頭から下ろしてください。私達に十分に楽な席を用意してくださって、『その荷物を下ろしなさい、私がやってあげるから』と、小鳥のように歌ってるイエス様のみ心を、この自然の中でもう一回感じてみましょう。

ありがとうございました。